

山田みやこの活動報告

令和4年9月2日(金)

那須特別支援学校寄宿舎閉舎について会派で調査を行った

那須特別支援学校の寄宿舎は知的障害を持つ児童生徒の遠距離のための通学困難解消と集団生活の中で基本的な生活習慣やコミュニケーションを身に付け、卒業後に自立した生活が行えるよう教育的効果を得る場となっています。成長していく上で大きな役割を果たしており、保護者を始め学校関係者内外から高く評価されてきています。

しかし昨年7月、県教育委員会は施設の老朽化(築40年以上)と設置目的の通学困難者の減少を理由に、来年3月末をもって閉舎すると保護者に伝えました。夏季休業直前であり保護者間の意見交換も充分に行えず、閉舎後の子ども達の教育環境に戸惑いと不安が大きくなっていました。

今年3月と5月に県教育委員会は寄宿舎の老朽化と通学困難者にはスクールバスの増便で対応するため問題ないとの説明を行い、評価の高い教育的入舎の代替については何も示しませんでした。閉舎ありきの一方的な進め方という印象が強く、障がいのある子ども達への合理的配慮が欠けており、丁寧な姿勢とは程遠いものでした。

県に対して大田原市、矢板市、那須町の各議会から閉舎を撤回し存続を求める意見書の提出とともに、保護者の方々は存続を求める署名(7,700筆)を提出しました。その後、街頭署名は17,700筆となり存続の要望書の提出と県庁前での横断幕による街頭活動も行いました。

そこで会派として寄宿舎の老朽化も含め、現地調査を行いました。築40年以上経過しているものの、同時に建設された校舎は5年前に改修工事が行われトイレや外観も整備されていましたが、寄宿舎棟は改修されず対照的でした。ただ耐震基準も満たしており維持管理はされ改修により継続使用は可能です。

民主市民クラブ会派の中間期政策推進要望と9月通常会議の私の一般質問において寄宿舎存続を強く提起していきます。

